第１号議案

特定非営利活動法人　あおーら

２０２５年度事業報告（２０２５年４月１日～２０２６年３月３１日）

1. 次世代の育成

法人の次の時代を担う職員による自由な討論の場であるＮＧ会（Next Generation 会）を定期的に開催した。法人のあり方や取り組むべき課題等について、率直な意見や提言を期待したい。

また、職員の資質向上を目的に定期的な研修会をスタートさせた。

2. チーム支援の充実

利用者の高齢化や生活上の課題、生活の質の改善など、利用者が希望する生活に近づけるよう、法人内各事業所で情報を共有し統一した支援をこころがけた。法人内はもとより関係機関とも情報を共有し、チームとして支援する取り組みを強化した。

3. 地域生活の包括的な支援

利用者が地域社会の一員として、安心して自分らしい生活をすることができるよう「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に取り組んだ。医療、就労等の社会参加、生活支援、普及啓発等が包括的に確保される必要がある。飯能市では関係機関の連携に前進がみられ、日高市でも同様の取り組みについての検討がスタートした。

入院中の方に地域活動支援センターの体験を行っていただくなど、安心して退院できる一助となるよう、医療機関と連携したプログラムにも取り組んだ。

4. 「みなくる倶楽部」との協働

飯能市障害者支援協議会への参加、毎週土曜日のフリースペースの運営、市民・医療機関・看護学生への啓発活動などの活動に協働で取り組んだ。多機関多職種連携による訪問型生活支援については、「みなくる倶楽部」役員の体調不良等により実施できなかった。

5. 家族会との協働

毎週水曜日の家族相談会、「ぽかぽかコンサート」、市民への啓発活動などについて、飯能日高精神障害者家族会（みのり会）と連携して取り組んだ。」ぽかぽかコンサート」には他の障害者団体や利用者家族の参加もあり、盛況だった。

6. 重度心身障害者医療費助成制度の適用拡大

家族会と共に、重度心身障害者医療費助成制度の精神障害者二級への適用拡大を求める署名活動に取り組くんだ。全科の医療費の助成にはいたらなかったが、一割負担となっている自立支援医療費について、日高市では 2026 年 4 月から、飯能市では 2026 年 10 月から精神障害者手帳二級所持者については免除されることになった。

7. クラブハウスの返還

2007 年に家族会から引き継いだ飯能警察署前の地域活動支援センターの建物を、2025 年度末をもって飯能市へ返還することになった。